

新しい時代の生き方を実践する共働学舎の奇跡 宮嶋代表の新著が届いています！

世界コンクール「山のチーズオリンピック」で金賞受賞の「さくら」でお馴染み、新得共働学舎、宮嶋望代表が、新著『共鳴力』を上梓されました。2016年夏に起きた障がい者の大量殺害事件に衝撃を受けた宮嶋さんの「この世にいない人間なんていない」という強いメッセージは、自然の中で障がいやハンディをもつ人々と自労自活の実践をされてきた貴重な体験から出た魂の叫びなのでしょう。むしろ彼らを含めた様々な人々と共に生きることこそが、閉塞したこの社会を乗り越え、新しい時代を生み出す「鍵」である、と。そんな時代を先取りした共働学舎の生い立ちと取り組み、共感を軸にしたこれからの組織論などが紹介されています。尚、文中でまほろばの「エリクサー浄水器」もご紹介いただいています。以下に転載させていただきましたので、合わせてご覧ください。



共働学舎の牛乳山にある牧場に立つ宮嶋望代表



共働学舎に設置された業務用エリクサー



『共鳴力』

ダイバーシティが生み出す
新得共働学舎の奇跡
宮嶋望著 地湧社刊
1800円+税

「第二章 共鳴：人間もチーズもニコニコ共振する環境って？」より

電子水とセラミックスの効果、究極の浄水器。

電子農法のグループとの付き合いいで炭埋の延長線上で教わったのが電子水です。植崎博士が研究され、その教えを受けた人たちが継承して「電子チャージャー」という機械を作っていました。これは、備長炭（びんちようたん）の入ったステンレスのタンクに入った水に、電子チャージャーを通してマイナスのイオン電子を蓄電（チャージ）するということです。

電位が高くなった水は分子の結合が緩んで、それまで結合していた不純物を吐き出します。不純物は電子を集めてマイナスの極となっている備長炭に集まり無数の細孔に吸着されるので水が浄化されます。

また、水は高電位に蓄電しているので還元力が強くなっています。そのため、この水につけても鉄が錆びないし、野菜を洗うとなかなか腐らず長持ちします。さらに飲用すると、高電位で水のクラスター（分子集団）が小さく分断されているので、体のすみずみまで浸透し、老廃物を運び出してくれるのです。

こうした理屈は、僕が学んできた物理学と矛盾がなく納得がいくものでした。「電子チャージャー」は50万円もして、当時の新得共働学舎にはとても高い買い物でしたが、みんなの健康には代えられないと思いついて購入しました。心身を損ねたメンバーが自立していくために健康は必須の条件だからです。

こうして水の重要さを感じていた僕は、友人となった札幌の自然食料品店「まほろば」の宮下周平社長による「究極の浄水器」開発に協力することになります。宮下社長は、世界中から集めて厳選した材料で焼いたセラミックスを中心に宝石・岩石・活性炭を濾過層に搭載した浄水器「エリクサー」を開発します。電子チャージャーの電子水は不純物が除去されピュアなのですが、もうひとつ物足りない部分がありました。この「エリクサー」は業務用の菌検査に合格しているのに、その水は発酵菌を増殖活性化させる酵素を含んでいるのです。

僕は、チーズ作りにはもつと複雑な「おいしさ」が必要だと思っていました。「おいしさ」というのは、とても複雑微妙で、いろいろな味が絶妙なハーモニーを奏する必要がある。その中には、苦みのような一般に雑味とされるようなものも成熟した味わいの核となります。こうした、自然の岩盤を通過して複雑な要素も含んだ水が、世界的にも美味しい水とされています。究極の浄水器はそうした水を提供してくれています。

世界には聖地といわれる場所があり、歴史的に宗教的な施設となっていたりします。そうした聖地や聖水の湧き出す場所は常磁性（外部磁場があるときに磁性を持つ性質）磁性体によく反応する）が高いのです。ルルドの水をはじめ、奇跡の水と呼ばれる水がありますが、そうした水は常磁性が高い岩層から湧き出しています。そして、宮下社長の浄水器も、常磁性の高いセラミックスを使い素晴らしい水を提供するのです。さらに還元水、有用微生物の活性化、重金属の除去などにも優れています。

新得共働学舎のチーズは製造過程でこの水が使われています。無殺菌乳でチーズ作りをする過程で、乳酸菌を始めとする発酵菌群の活性化が高まって、大腸菌や黄色ブドウ球菌などの雑菌の数が驚異的に減少したのです。これは、衛生の面はもちろん、品質面でも飛躍的にいいものができるのです。新得共働学舎のチーズが世界的に認められ、ファンが多い原動力の一つが、究極の浄水器です。

ちなみに、この「究極の浄水器」で作られる水は波動水になっています。さまざま複雑な素材による濾過層を通る際に、電子エネルギーの波動を受けて、水のクラスターがいろいろな波動を持つのです。